

平成 28 年(2016 年) 7 月 15 日  
山 口 県

病虫害名 イネいもち病(葉いもち)

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 7 月中旬～7 月下旬
- 3 発生程度 多

#### 4 注意報発令の根拠

- (1) 7 月 11 日～13 日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率 8.1%(平成 6.7%)、発病株率 3.4%(平成 1.6%)、発病度 0.9(平成 0.4)で平成に比べやや多かった(図)。発生ほ場では、上位葉に病原菌胞子の形成量が多い進行型病斑がみられた(写真)。
- (2) BLASTAM<sup>ブラスタム</sup>による葉いもちの感染好適条件が、6 月 28 日～7 月 5 日にかけて県内全域で出現しており(表)、今後、発病の進展や新たなほ場での発生が予想される。
- (3) 向こう 1 か月の気象予報(7 月 14 日発表)では、気温は平成並みまたは低く、日照時間は平成並みまたは少なくなっており、葉いもちの発生に好適な気象条件が予想される。

#### 5 防除方法

- (1) 葉いもちが発生しているほ場は、治療効果のある薬剤で直ちに防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除を適期に実施する。液剤・粉剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の 2 回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。
- (3) 防除薬剤は、平成 28 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準を参照する。

#### 6 防除上注意すべき事項

- (1) 6 月上旬までに移植したほ場は、長期持続型箱施用剤の効果が低下してきているため、ほ場を丁寧に見回り、葉いもちが発生している場合は直ちに防除を実施する。
- (2) 薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布を行うことも必要となるが、散布後 3～4 時間は降雨のないことが望ましい。
- (3) 粒剤・パック剤は薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する。
- (4) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないようにする。

(参考) BLASTAM (ブラスタム) とは

葉いもちの感染に好適な条件が出現した日を、アメダスデータ(気温・降水量・日照時間・風速)をもとに推定するシステム

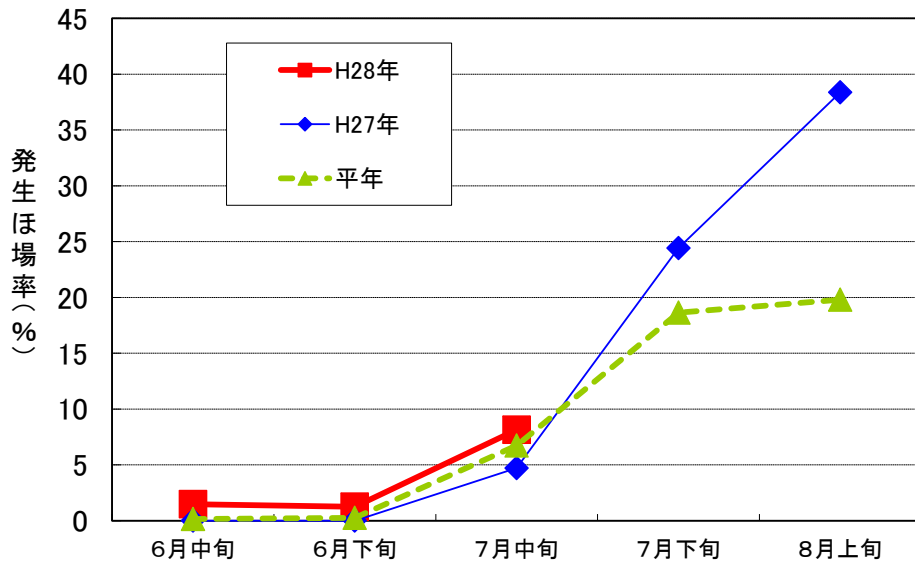


図 葉いもちの発生ほ場率の推移



写真1 葉いもちの症状



写真2 進行型病斑

表 BLASTAMIによる感染好適条件の出現状況(6/11~7/13)

アメダス 地点	6 月					7 月								
	11	15	20	25	30	1	5	10	15					
須佐	-	-	-	-	●	-	-	-	△	-	-	△	-	-
萩	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	△	-	-
油谷	-	-	-	-	-	△	●	-	-	-	-	△	-	-
徳佐	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	△	-	-	-
秋吉台	-	-	●	●	-	-	△	△	-	●	●	●	-	-
広瀬	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	△
豊田	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	△	-	-
山口	-	-	●	-	-	-	●	-	-	●	△	-	△	-
岩国	-	-	●	-	-	-	●	-	-	△	-	-	-	△
防府	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
下松	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	△
玖珂	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	●	-	-	△
下関	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-
宇部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳井	-	-	●	-	●	-	△	-	-	●	●	-	-	△
安下庄	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	△

注) ●印は、アメダスデータから算出した葉いもちの感染好適条件が出現した日を示す。△印は、感染するには一部の条件が不足した準好適条件出現日を示す。

感染好適条件出現の約1週間後に初発病斑が認められ、約2週間後に病斑が目立ってくる。ただし、防除(箱粒剤等)、イネの品種、肥培管理等の条件によって感染、発病しない場合もある。